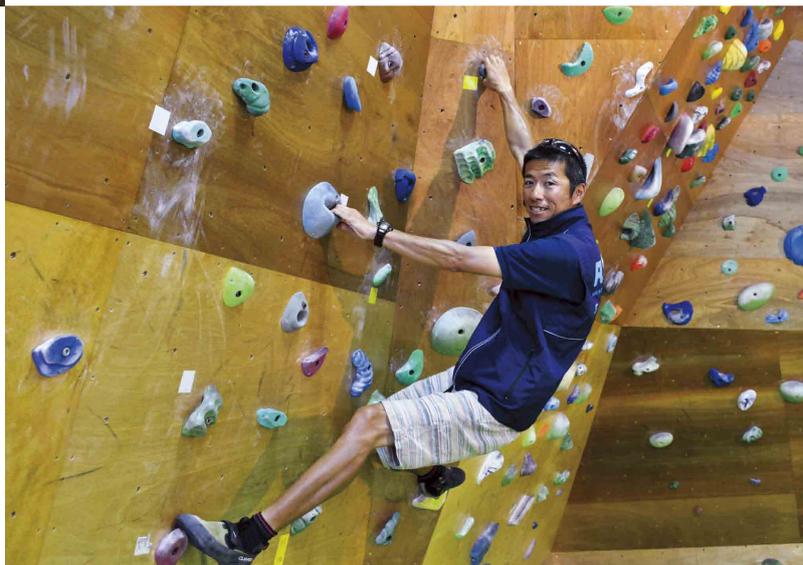




自分の力量がどれほどか、青年は日々試している。

橋本凌さんは平成五年生まれの若者。畜産や農業のいろはを覚えてくれたのは祖父だった。成人式を迎える前に、この道を突き進もうと決心した。自分さえる気になれば答はついてくる。そういう、わかりやすい世界である気がしたから。早朝めざめたら、まずおよそ三十頭の牛の世話をする。自分の朝めしはそのあとだ。手塩にかけると、という上等な営みをあらわす語があるけれど、若者はすでにそれを体得している。牛の世話をし、朝めしを食べたら、つぎは田に出る。陽が傾くまで働いて、夕方また牛の世話。中学生のようなその笑顔は、若き日本のちからだ。

若き畜産家 橋本凌



四季の色彩を舞台に、上質の遊びを提供する。

少年時代、「パイロットになりたい」と思っていた。無駄な脂肪がどこにも見当たらない身体で野山を風のように動き回る。天草生まれの坂田英樹さん。あるとき、阿蘇のパラグライダースクールに参加し、「エンジンではなく風で飛ぶのか、いいなあ」とすっかり心を奪われた。それをきっかけに火山のふもとに活動の拠点を移す。「この地の魅力は四季の色の違いがくっきりしていることです」。野焼きを終えた真っ黒の斜面に、緑が萌え、やがてすすきが金色に輝き、純白の雪化粧へとかわる。それらを舞台に、ユニークなアクティブ体験が繰り広げられるのだ。

阿蘇ネイチャーランド  
坂田英樹



一枚の板に、いのちが与えられていく。

柔道二段の笹原聡さんは、岩のような身体に似合わず「思わずうなるほど、きめ細やかな仕事をする人」との評判がしきりだ。大きな手のひらは、とびきり器用。先々代（祖父）、先代（父）の仕事ぶりを見て育った。「きれいだなあ」と、子どものころいつも感心していた。一枚の板が、まるでいのちを与えられるようにさまざまに繊細な形へと仕上げられていく。この「きれいな」仕事を継ぐことになんの抵抗もなかった。木造住宅が減ってきている時代だが、木という呼吸する素材で造った家は季節なじみ家族とともに成長していく。そう確信している。

笹原木工所 笹原聡

火の国阿蘇の  
恵みのブランド

然  
zen  
Aso City

あるがまま、という貴さ。  
人と自然が共作する阿蘇。

然についてのお問い合わせは、  
阿蘇市「草・観・然」活性化事業推進会議事務局  
(阿蘇市観光課)  
TEL. 0967-22-3174 / FAX. 0967-22-4566

aso-zen.com

● 阿蘇の自然を舞台にした人びとの営みこそ大きな力を持っている、という考えで2013年秋にスタートした「火の国阿蘇の恵みのブランド-然」。活動の広報として、お一人お一人のポスターを制作しています。

● 「然の人びと」は現在も取材進行中です。輝いている阿蘇人をどしどしご紹介ください。自薦他薦を問いません。



CONTENTS もくじ

- 04 夏のレジャー、水難事故を防ぐために
- 06 ごみ出しルール9カ条を確認！
- 08 節水にご協力を！大切な水を守りましょう！
- 09 まちの話題
- 12 目指せ、全国の頂点！～全国大会出場者紹介～
- 14 市役所からのお知らせ
  - ▶ 児童扶養手当、ひとり親家庭等医療費助成の現況届は8月31日まで
  - ▶ 風しん抗体検査・風しん予防接種
  - ▶ 臨時福祉給付金の申請受付、9月1日から
- 17 人権作文 ▶ 橋本亮大君
- 18 マイナンバー「税の分野でも社会保障・税番号制度が導入されます」
- 19 土砂災害特別警戒区域からの移転費用を助成します  
平成27年度自衛官採用試験
- 20 暮らしの情報
- 22 自慢の学校 ▶ 波野小学校
- 23 図書館へ行こう！
- 24 暮らしカレンダー・お慶び・ご寄付
- 26 公民館の分館活動紹介 ▶ 中通分館
- 27 地産地消クッキング
  - ▶ 鶏と夏野菜の焼き漬け
  - さわやかフレッシュマン ▶ 佐藤佳保さん
- 28 阿蘇ジオパーク探訪
  - ▶ 大観峰ジオサイト\_巨大噴火による火砕流大地



りんどう保育園で7月16日、川や海での水難事故を防ごうと訓練が行われました。

阿蘇広域消防本部による紙芝居やペットボトルを浮輪替わりに活用した実演などが行われ、「海や川には絶対に一人で行かないで」と注意を呼びかけました。

着衣泳を行った園児は、水の中で動きづらそうにしながらも、元気いっぱいを楽しみながら訓練に取り組みました。

夢を追いかける青少年の声を届けますー

# 夢を追いかけて

僕の夢は、地域の伝統芸能を受け継いでいくことです。保育園のころ、神楽に参加していた兄の姿を見て、真似をするようになりました。最初は尊みことの面を「怖い」と思いましたが、舞っている姿を見るうちに「格好いい」と思うようになり、おはやしが聴こえてくると自然と身体が動くようになりました。今年で、神楽を始めて4年目になります。

これからもっとたくさんの演目を舞えるように、保存会の方に教えていただきながら、練習を重ねていきたいです。

## 清水 城斗

しみずじょうと／波野小学校・6年